

ミニリンメルト[®]OD錠を 使用されている皆様とご家族の方へ

[中枢性尿崩症編]

監修

虎の門病院 内分泌代謝科

竹下 章 先生

◆ 尿崩症とは? ◆

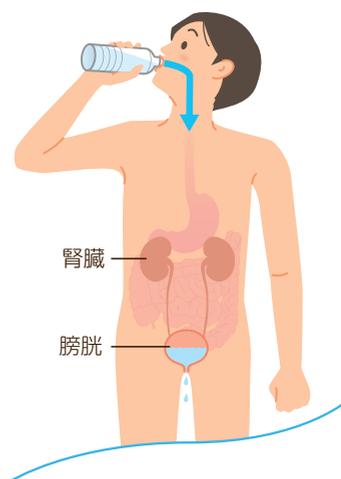
「雪が崩れる」と書いて雪崩(なだれ)と読みますが、「尿が崩れる」と書く尿崩症(にょうほうしょう)は、まるで雪崩のように、大量の尿が流れ出るような「多尿」が特徴の疾患です。尿崩症では、水を多く飲むため尿がたくさん出るのではなく、尿がたくさん出るため水を多く飲みたくなります。通常、成人の一日尿量は1~2L(リットル)ですが、尿崩症になると少ない人でも3L、多い人では10L以上の「多尿」になります。

例えば、24時間で10Lの尿が出ると、1時間あたりの尿量は約0.4L(400mL)になります。成人の膀胱容量は400~500mLですので、ほぼ1時間毎にトイレに行くことになります。このため、日中はトイレが確保できないと外出が困難となり、夜中は何度もトイレに起きてしまって熟睡しにくい状態になります。

多尿により体から水分が抜けてしまうので、非常に喉が渇き(口渴)、尿量に見合う水分を摂取しないと(多飲)、脱水状態となります。このように尿崩症では「口渴・多飲・多尿」がおきることが特徴です。

なお、小児では単なる、おもらし・おねしょと勘違いされ発見が遅れることがあります。

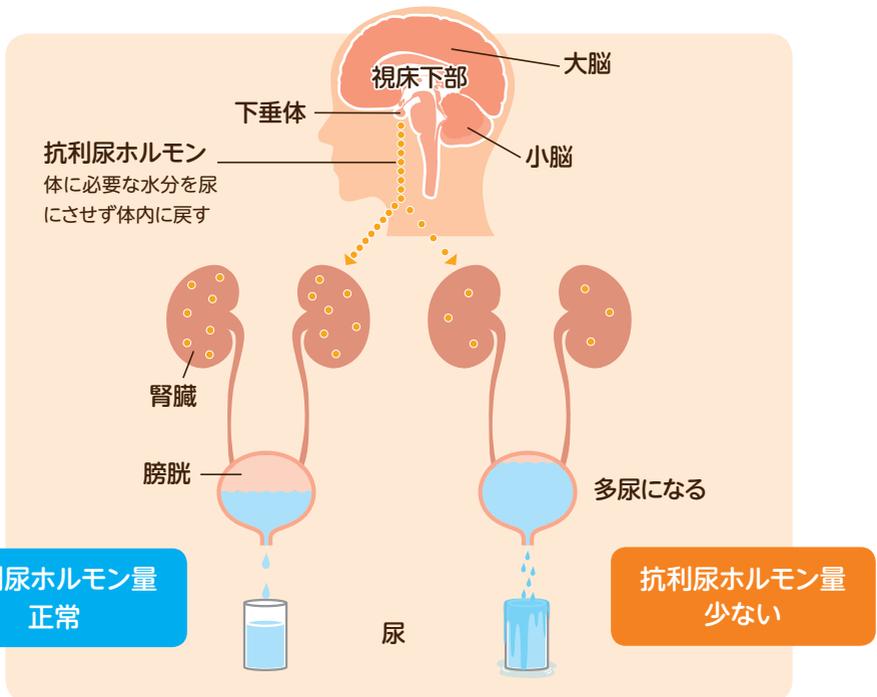
飲んだ水は体に吸収されます。
体に溜まった水分は腎臓で尿となり、
膀胱に貯められ、排泄されます。



腎臓における水分調節

腎臓の働きは、「水分の調節作用」と「体に溜まったアンモニアなどの老廃物の排泄作用」の大きく2つに分けられます。尿崩症では水分の調節作用がうまくいかず多尿になりますが、老廃物の排泄作用には問題がありません。

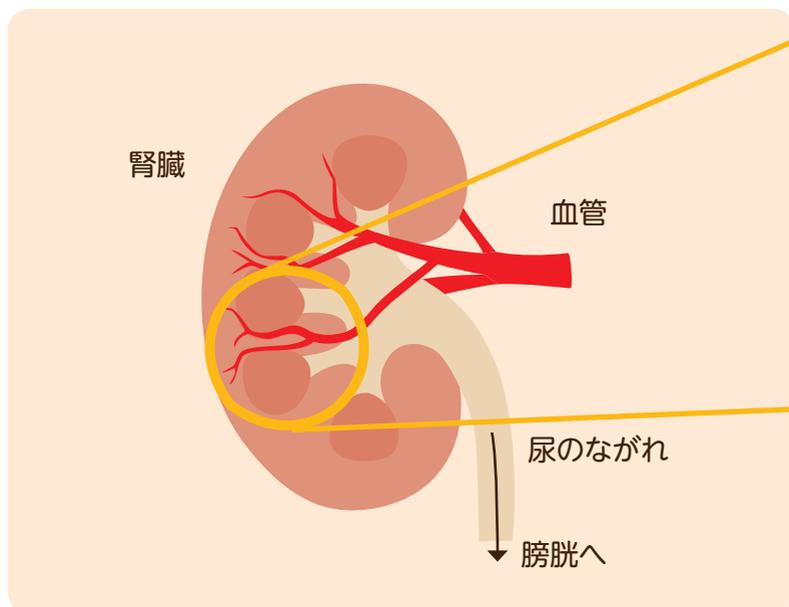
尿の水分は腎臓を流れる血液の水分がもとになります。健康な人であれば1分間に約100mL、24時間に換算すると144L(小さめのお風呂一杯分)もの血液が腎臓で濾過され、尿のもとになる原尿(げんにょう)が作られます。原尿の水分は腎臓を流れるうちに99%が「再吸収」により血管に戻り、実際に尿になるのは約1%の1~2Lになります。この再吸収のために必要なのが下垂体(かすいたい)から分泌される「抗利尿(こうりにょう)ホルモン」です。



◆ 抗利尿ホルモンとは？ ◆

体内では様々なホルモンが作られ体のバランスを整えています。そのうち、腎臓に働いて体の水分量の調整を行っているホルモンが「抗利尿ホルモン」です。ADH、AVP、バソプレシンとも呼ばれます。脳の視床下部(ししょうかぶ)で作られ、下垂体に蓄えられ、その後分泌されます。「抗利尿ホルモン」は、「利尿(尿の出を良くすること)」をさせないよう「抗う」(あらがう、抵抗する)ホルモンのことで、「尿を減らす」役割をするホルモンです。

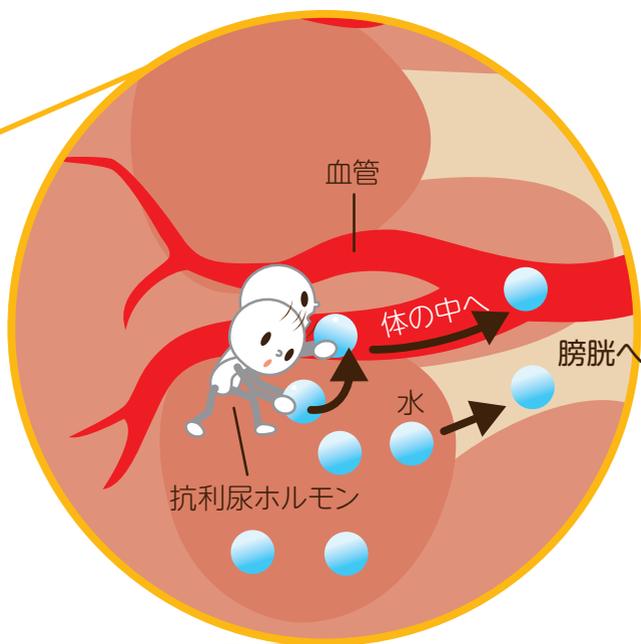
例えば、暑くて大量の汗をかいたときに水分の補給量が少ないと、尿量は減り、黄色い濃い尿(濃縮尿)になります。これは体の水分量が不足したため、下垂体から抗利尿ホルモンがたくさん分泌されて尿が減るからです。逆に、水をたくさん飲むなどして体の中に水分が溜まりすぎると、抗利尿ホルモンの分泌が減り、薄い水のような尿(希釈尿)がたくさん出ます。



💧 中枢性尿崩症とは？ 💧

尿崩症には、下垂体での抗利尿ホルモン分泌が不足して生じる中枢性尿崩症と腎臓に原因がある腎性尿崩症があります。

中枢性尿崩症は頭部の外傷、視床下部や下垂体の病気や手術などが原因となって起こる場合と、原因不明（「特発性」といいます）の場合があります。中枢性尿崩症では、「抗利尿ホルモン作用」を持つくすりを使って尿量を調整します。



抗利尿ホルモンは、膀胱へ流れる水分を血管内に戻す働きをします。中枢性尿崩症の方は、水を飲むのをがまんしても抗利尿ホルモンが多く作られるわけではありません。水を飲むことをがまんしないでください。

このくすりの名前、有効成分など

販売名	ミニリンメルト® OD錠 60 μ g	ミニリンメルト® OD錠 120 μ g	ミニリンメルト® OD錠 240 μ g
一般名 (有効成分)	デスモプレシン酢酸塩水和物		
1錠中の含量 (デスモプレシンとして)	60 μ g	120 μ g	240 μ g
錠剤の色	白色		
錠剤の大きさ	直径12mm、厚さ3mm		
錠剤の外形 (くすりの上面)			

OD錠 = 口腔内崩壊錠 1 μ g(マイクログラム)=1,000分の1mg(ミリグラム)

ミニリンメルト® OD錠 60 μ g



ミニリンメルト® OD錠 120 μ g



ミニリンメルト® OD錠 240 μ g



* シート端までミシン目が入っているのはシート上部にある耳の右側部分のみです。

錠剤が入っているシートの材質は、アルミニウム、紙、ポリエチレン等です。

◆ このくすりののはたらきと使用目的 ◆

ミニリンメルトの有効成分はデスモプレシンです。デスモプレシンは、抗利尿ホルモンと同じようなはたらきを持つ物質であり、抗利尿ホルモンの代わりに同じような作用を示し、体に必要な水分を尿にさせないことで多尿を改善します。多尿が改善されると、口渇や多飲も改善します。

このくすりを使う前に知っておいてほしいこと

▶ 継続的に服用してください

このくすりは、抗利尿ホルモンが不足している原因を治すくすりではないため、抗利尿ホルモンが不足し続ける限り継続的に使用します。

▶ このくすりは舌の下に置いて、水なしで服用してください

このくすりは普通の錠剤のように水で飲みこむくすりではありません。舌の下に置くと、速やかに溶けるので、水なしで飲んでください。くすりは無味無臭です。

▶ 水分の取りすぎに注意してください

このくすりの副作用として、過剰な水分が体にたまることで生じる「水中毒」に注意が必要です(詳細は「副作用とその対策」の項)。

▶ 下記のような方は、主治医に相談してください

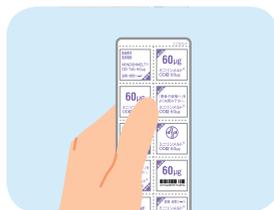
以前にくすりを飲んで発疹が出たことのある人、他にくすりを服用している人、妊娠/授乳中の人、水を大量に飲む習慣のある人、腎臓や心臓の機能が低下している人(高血圧、心不全、狭心症など)。



このくすりの使い方

- ✓ 飲む直前までシートからくすりを取り出さないでください。
(このくすりは湿気や光によって変質します)
- ✓ このシートはくすりを取り出しにくくしています。
(小さい子どもが勝手に開けられないチャイルドプルーフ構造を採用しています)

- 1 文字が読める方を手前に向けてシートを持ちます。



- 2 シート上部の耳の部分を目シに沿って前後に折り返します。

※シート上部の耳の部分がすでに切り離されている場合は4に進んでください。



- 3 耳の部分を右側から切り離します。

※耳の左側はシート端まで目シが入っていません。
※くすりは使用する直前に取り出してください。



4

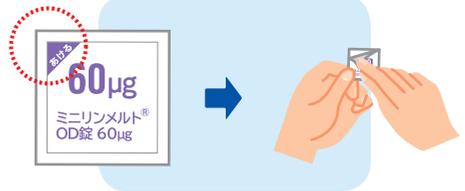
シート中央のミシン目から下向き(矢印①)、外側(矢印②)に向かって1錠分を切り離します。

※シート両端にミシン目は入っていません。



5

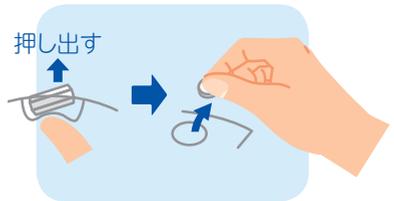
「あける」の角から、シールをはがします。



6

爪を立てずに指の腹で、ふくらんだ部分の中央を押し出し、くすりを取り出します。

- ※無理にくすりを押し出そうとしないでください。
- ※ぬれた手でくすりをさわらないでください。
- ※くすりはやわらかいため、取り出す時に欠けたり割れたりすることがありますが、欠けたり割れたりした分も一緒に飲んでください。



7

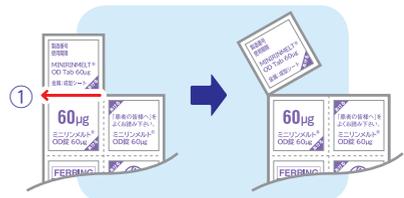
取り出したくすりは、舌の下に置くと、速やかに溶けます。

※くすりは水なしで飲んでください。



8

続けてくすりを取り出す場合は、外側(矢印①)に向かって1錠分を切り離します。



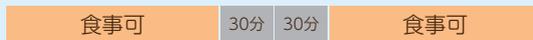
◆ このくすりの飲む量と飲む時間 ◆

● 少量から飲み始め、量を調節します

人によってくすりの効果は異なります。そのため、このくすりは少量から飲み始め、個々に合った飲む量を決める必要があります。まずは、睡眠中にトイレに起きることなく眠れることを目標に飲む量を設定しますので、主治医の指示どおりに使用してください。その後、昼間の飲む量を調節し、あなたに合った飲む量とタイミングを、時間をかけて決めていきます。自分の判断で量を増やしたり減らしたりしないでください。高齢者や腎機能が低下している方はくすりが少量ですむことも多く、より慎重に飲む量を決める必要があります。

● くすりを飲むタイミングは重要です

このくすりは食事によって吸収されにくくなります。そのため、食事の前後30分以内の服用は避けてください。また、くすりを飲む時間は、「食後〇時間」「食前〇時間」とし、“昨日は朝食前にくすりを飲んだ、今日は朝食後に飲んだ”のように、くすりを飲む時間を日によって変えないでください。なお、多量の飲水が習慣となっている場合があるため、特に飲み始めにおいては1日1回、同じ時刻に体重を測定し、変わらないことを確認してください。



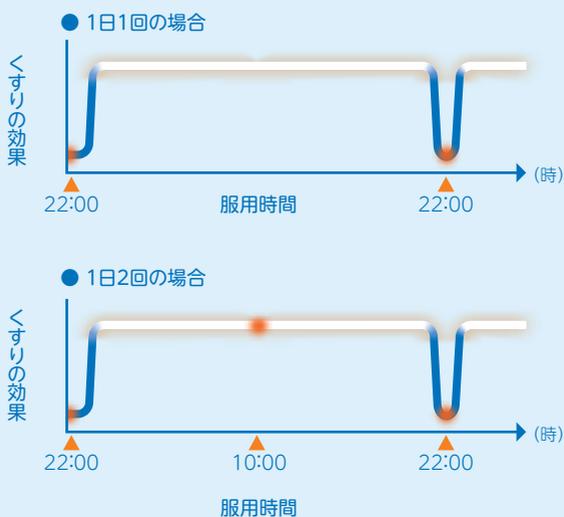
ミニリンメルト服用

効果が一時切れる時間を作ります

1日1回程度、このくすりの効果が一時切れるように、くすりを飲む時間を空けてください。日常生活に影響を与えにくい就寝前などに合わせ、くすりの効果が切れ「多尿」の症状(=膀胱に尿がたくさんたまっているように感じる、トイレに行く時間が早まる、のどが渇き始める)が出たことを確認した後、次のくすりを飲んでください。はじめは主治医と相談しながら行います。くすりの効きすぎで生じる副作用の水中毒(次頁参照)を防止することが目的です。

飲み方の例(イメージ図)

具体的な時間は主治医と決定します



副作用とその対策

くすりは、目的の効果以外に望ましくない作用を引き起こす場合があります。このくすりを使用する際に一番気をつけなければならないことは、過剰な水分が体にたまること(水中毒)です。

水中毒は、くすりで尿量が減っているのに水分を取りすぎたり、またはくすりの使用量が多い場合に、体に過剰な水分がたまって血液がうすまり、血液中のナトリウム濃度が低くなることで起こります(低ナトリウム血症)。水中毒になると倦怠感、頭痛、食欲低下、吐き気、嘔吐、めまい、のぼせ、むくみなどが生じ、重くなると昏睡やけいれんを起こすことがあります。



ふだんと違った症状があれば、
すぐに主治医または薬剤師に相談してください。

水中毒の対策

- ▶ くすりが効いている間(尿量が減っている時)は、水分を多く取りすぎないように十分な注意を払ってください。

- ▶ 自分の判断でくすりを飲む量を増やさないでください。

- ▶ 点滴を行う場合や飲水量が増加するような疾患(発熱など)が生じている場合は、主治医に相談してください。

- ▶ 過剰な水分摂取があると体重が増えるため、なるべく毎日、同じ時間(起床時など)に体重を測定して変動の無いことを確認してください。体重の増加を伴う体調不良は水中毒の可能性あります。

- ▶ 倦怠感、頭痛、食欲低下、吐き気、嘔吐、めまい、のぼせ、むくみ、けいれんなどの症状があらわれた場合には使用をやめて、すぐに主治医に連絡してください。

※新生児や乳児の場合、自分で自由に水分を取ることができないため、体重測定などを参考にしながら水分量を管理します。

※脳の障害により口渇感(口の中が渇く)を感じない人は、適切な水分摂取量の調整が困難です。毎日、同じ時間(起床時など)に体重を測定して、大きな変動の無いことを確認してください。変動が大きい場合は、主治医に相談してください。

Q & A

Q1 このくすりは舌の下に置かずに、水と一緒に飲んだりしてもよいですか。



A

このくすりは、水なしで飲んでください。口の粘膜からも吸収されて作用するため、水と一緒に飲むと効果が弱くなる場合があります。舌の下には唾液が多く、速やかに溶けますので、舌の下に置いてください。

Q2 くすりを飲んだ後、すぐに水を飲んだり、食事をしてもよいですか。



A

このくすりは口の粘膜からも吸収されるため、すぐに水を飲んだ場合は効果が弱くなる場合があります。可能であれば、くすりを飲んだ後、30分程度経ってから、飲水や食事を開始してください。のどが渇いている場合にはくすりを飲む前に水を飲んでください。



Q3 ほかのくすりと一緒に飲む場合、なにか問題はありますか。



A

先にほかのくすりを飲んだ後、水なしでこのくすりを飲んでください。また、くすりによっては一緒に飲むと問題が起こる場合がありますので、他の病気で別の医療機関にかかったときには、このくすりを飲んでいることを必ず医師に伝えてください。

Q4 誤って多めにくすりを飲んでしまいました。
なにか問題がありますか。



作用時間がいつもより長くなり、水中毒になる可能性があります。水中毒になると、倦怠感や頭痛、吐き気などの副作用が出ることがあります。そのような場合にはくすりの効果が切れるまで、次のくすりは飲まずに主治医または薬剤師にすぐに相談してください。

Q5 取り出す時にくすりが割れてしまいました。
どうすればよいですか。



欠けたり割れたりした分も一緒に飲んでください。効果に変わりはありません。このくすりはやわらかいため、取り出す時に欠けたり割れたりすることがあります。

Q6 くすりの効果は日によって変わりますか。



このくすりが効き続ける長さ(時間)は、くすりの吸収などにより、日によって多少の変動があります。念のため、くすりの飲み方(水と一緒に飲んでしまっていないかなど)に問題がないことを確認してください。

このくすりは経口製剤(口から飲むくすり)ですが、このくすりの有効成分(デスマプレシン)と同じ成分が入っている点鼻製剤(鼻の中に液体を噴霧するくすり)もあります。使いやすさなどでくすりの種類が選ばれていますが、必要に応じて主治医に相談してください。

[医療機関名]

[主治医名]

[薬剤師名]



フェリング・ファーマ株式会社



キッセイ薬品工業株式会社

※許可なく複製・引用を禁じます。